

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要】事業所記入欄			
事業所番号	4091600157		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム 西牟田		
所在地	〒830-0111 福岡県久留米市三潅町西牟田6323 - 9 0942-65-2150		
自己評価作成日	平成 23年12月18日	評価結果確定日	平成24年02月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自立・快適・安心」を理念に認知症高齢者が家庭らしく、家族に包まれて生活しているような支援を行います。自分らしい人格と尊厳をもって、個々に合ったケアを提供し、入居者本人の有する能力に合わせて、可能な限り自立にて営むことができるように生活介助を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米市郊外の、自然が残る住宅街の一角に、平屋建て2ユニットのグループホーム西牟田がある。広い敷地を抜けて、玄関から入ると、ベテラン職員顔負けの調理上手な利用者が、楽しそうに職員と、調理している姿が目に入る。「住み慣れた地域で、自分らしく、自立を目指し、生活したい」という、利用者の思いが、職員の心を動かし、利用者一人ひとりに合わせた、介護サービスの提供を実施し、協力医療機関との24時間の医療連携で、安心した暮らしの支援を実践している。また、庭の一角に畑をつくり、収穫は利用者の楽しみの一つで、料理に使ったり、近隣に配ったりして、地域交流を始めている。また、夏祭りや、焼肉パーティーを毎年実施し、開設6年を迎え、地域との信頼関係が少しずつ始まり、地域に根差したグループホームとして活躍が期待される「西牟田」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294
訪問調査日	平成 24年01月24日

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立、快適、安心」をモットーにした理念を朝礼時合唱し、実践に結び付けている。	住み慣れた地域の中での自立した生活、家庭的な雰囲気の中で自由にゆったりとした暮らし、充実した日々と安心で笑顔のある生活を支援する事を、独自の理念とし、毎朝唱和し、共有して利用者に合わせた介護サービスを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域とのつながりをもち、夏祭りなどを実施し地域との交流をはかっています。	自治会に加入し、文化祭、運動会に利用者と職員が参加している。また、ホームの夏祭りに地域の方を招く等、交流を図る努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症介護についての意見交流を図っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、ホームでの現状を報告すると共に行事について話し合われています。サービスの質の向上に向けての話し合いの場となっています。	会議は、2ヶ月毎に開催され、ホームの現状や課題を報告し、参加者からは意見や質問等が出され、充実した会議となっている。また、出された意見は検討し、ホーム運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、行政職員と包括支援センター職員に参加してもらい、協力関係が出来ている。	グループホーム連絡協議会に加入し、行政職員に相談したりアドバイスをもらう等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要時のみ身体拘束の実施。3本以上の柵の使用。なるべく拘束しない対応に心掛けている。	身体拘束廃止マニュアルを揃え、やむ終えず拘束が必要な時は家族に説明し、承認を得て、ベット柵等使用することもある。職員は、拘束が利用者に与える影響を理解し、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、ネグレクトなどの事例を学び、見過ごしはないかなどの細心の注意をはらっています。入居者が話しやすい状態になるように気使い、対応するよう、些細な変化も気付く様努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会を持っています。必要ときは活用できるように努めています。	制度に関する資料を用意し、研修を実施し、職員の理解を深め、利用者や家族が必要とした時に活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時など入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、理解、納得されるまで、十分に説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内部において意見の反映は行っていますが、外部との機会は少ないと思います。	意見箱を設置し、また、家族の来訪時等、意見や要望を聴きだし、出来るだけ反映できるように努力している。また、家族会を実施し、前回は20名程の参加があった。	利用者一人ひとりの日々の暮らしや健康状態を記録したホーム便りを作成することによって、家族との信頼関係をより深める事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やミーティング前には職員との意見交換を設けています	毎月定期的に、職員会議と責任者会議を開催し、職員が活発に意見交換し、出された意見を出来るだけホーム運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めて頂いていると思います		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に当たっては年齢、性別、資格等の選別はしていない。	職員の採用は、年齢、性別、資格等の制限は設けていない。管理者は、職員が生き生きと働ける環境作りに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務内にて指導している。	毎朝のミーティング時に、「自立・快適・安心」という理念を唱和し、利用者の人権を尊重するための取り組みが始まっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は提供してはいるが、参加される職員は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで学ぶ機会を持っています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、よく聞く機会を作っています。困難な場合は本人本位に検討している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の現況報告し、家族の心配事、相談事にも努め支援しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も重要とした支援を見極めケアできる様、他サービス利用も組み込みながら、対応に努めています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの自立度、苑での出来ることなど見極め、役割を持っていただく様に努力しています		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の現況報告や健康状態報告時において、家族の意向も尋ね、共に検討しあい、支援していく様、努めています		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの人の面会があり、かかりつけ医との関係もたもっています。	友人、知人、親戚等の訪問や、行きつけの美容室への同行、家族の協力を得ながら馴染みの場所に出かける等、馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにおいての入居者同士の関係を見守り、孤立しないような支援に努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会、家族との交流を行っている		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に生活習慣や嗜好などの把握に努めています。一人ひとり個別に声掛け、希望、意向を話して頂く様にし、困難な場合は本人の意向に支援する様に努めています。	職員は、利用者に寄り添い、一緒に過ごす中で意向や思いの把握に努めている。また、意向表出の困難な利用者には、履歴や家族に相談する等して、意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報、家族からの情報、もしくは生活においての会話の中での情報を記録し、その方の生活歴やサービス利用経過の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に声掛けをして話を聞いたり、職員同士の情報交換、家族からの話などにより、情報収集し、カンファランスや、ミーティングなどにて全員が情報を把握できる様に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の様子を記録する中での気づきや家族の要望を聞き、本人の気持ちを反映した計画を話し合い、作成しています。	介護計画は、利用者や家族の希望を取り入れ、3ヶ月毎に作成している。また、状態に変化があった場合は、家族や関係者と連絡を取り合い、その都度介護計画の見直しを図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の支援経過にて日々の様子、実践状況、気づき、検討項目などをあげ、カンファ、ミーティング時話し合い、介護計画に活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の機能性には限りがあるため、柔軟な対応による支援は困難。検討が必要		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に民生委員の来苑あり。消防署立ち合い指導のもと防災訓練、避難訓練等を実施。協力を得ています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が納得のいく様にかかりつけ医の橋渡しを努めています。調剤薬局では薬情の提供より内容把握につとめています	協力医療機関の医師が2週間毎に往診し、夜間も含め、24時間の医療連携体制が確立されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者がかかりつけ医などの受診の際、馴染みの看護師や地域の看護職との利用者の健康管理、病状の報告など相談しあいながら、支援しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の訪問、家族との連絡を取り合いながら、状態を把握し、医師、看護師、医療連携室との情報交換や相談に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向は事前に確認。重度化に対しては可能な限り、対応し、医療の協力を得て努めている	協力医療機関と連携し、24時間体制をとり、利用者の急変に備えている。また、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、家族の協力を得ながら、利用者の重度化に向けた支援体制がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、実施。先日、救命救急士により急変時の対応、誤嚥時の救命処置の指導をうけました。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を民生委員様の協力の元実施している	消防署の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施している。	年2回、地域住民の協力を得て訓練を実施する事と、非常災害時に備えて、非常食、飲料水、毛布等の備蓄が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーに配慮したケアを心がけ、秘密厳守に努めています	職員は、利用者のプライバシーを尊重し、自由でのびのびとした介護サービスを実践しているが、職員間に格差があり、内部研修等を行う等、さらに意識の統一を図ることを検討中である。	職員一人ひとりが認知症介護に対する理解を深め、意識の高揚を図っていく努力が望まれる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、個別にて声掛けを行い困りごとはないか、要望、希望などはないかお尋ねしています。納得し暮らして頂ける様、支援に努めています			
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、無理強いせず、楽しく生活できる様に努めています			
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容、美容店は本人、家族が望む店に連れて行かれます。望まれれば、苑での散髪も応じます			
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限りの下拵え、片付けをして頂いています。食事を一緒に作り、配膳、下膳の残存機能を生かした支援に努めています	ジャガイモの皮むきやお皿洗い等、利用者が台所で生き生きと食事作りに参加する姿が見られた。食事は、利用者の介助を優先し、職員は利用者の食事の後にテーブルを囲んで食事をし、利用者と食事を一緒にする光景は見られなかった。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて的確に確認できる様記録しています。水分量など不足に気付いたら、確保できる様に支援しています。食事は栄養バランス考慮し嚥下状況を見極めながら、食物携帯を決めています			
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は自分でして頂き、介助が必要な方は準備のみ、仕上げ磨き、介助磨きと区別し、サービスしている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	1 9	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ介助の声掛けを行っています。排尿がない場合は、水音等を聞かせ、促す様に支援しています	管理者と職員は、利用者の排泄パターンを把握し、さりげない誘導や優しい声かけで、日中は出来るだけトイレでの排泄の支援を実施している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因、及ぼす影響を理解し、予防と対応に努めています。食事水分管理、適度な運動、生活のリズムを整える様支援しています		
47	2 0	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、要望される入浴時に、ここに沿った支援をしています	入浴日は決まっているが、利用者の希望や状態に応じて、毎日入る事も可能である。また、入浴を拒否される利用者に対しては、人を代えたりタイミングをずらす等、あの手この手で入浴をしてもらえるよう努力している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決定せず、その方に合わせたスタイルで入床して頂いています。一人ひとりの生活習慣や状況に応じて支援しています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の基本情報内に服薬情報を記載、服薬支援、症状の変化確認に努めています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴、力の生かした役割の支援に心掛けています。裁縫、編み物、食事作りをして頂き、支援しています。		
51	2 1	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診、最低、月に1回は苑車に乗っての外出、ピクニックなどや買い物支援を行っています。	天気の良い日は、利用者と職員と一緒に広い敷地内を散歩したり、畑の手入れを行なう等、四季の変化を五感で感じられるよう支援をしている。また、買い物、ドライブ等、出来るだけ利用者の希望に応える支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の依頼によりスタッフ同行の元、お金を使ってもらう支援を行います。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の内容を把握し家族と相談し、問題なければ、投函している。家族の了解次第で、電話、手紙の対応もしています		
54	2 2	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気になる臭いがないように心がけています。定期的な換気に努め、温度湿度調節をおこなっています。テレビの音、入居者同士の音のいざこざ等にはスタッフが対応しています。	自然に恵まれた広い敷地の中の建物は、家庭的で落ち着いた雰囲気であり、明るい居間には畳のスペースもある。午後からは日当たりの良い場所に椅子を移動して日光浴をしながら利用者同士、職員も交えながらおしゃべりする心温まる光景も見られた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーは広く確保しており、畳コーナーでは足を延ばして寛いで頂いたり、思い思いに過ごして頂ける様に工夫をしています。		
56	2 3	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族等との相談にて使い慣れた家具、お好みの日用品など持ち込まれています。家具の配置、模様替えにも随時支援しています	居室は、利用者の好みの物、馴染みの物を持ち込んでもらい、出来るだけ自宅と違和感のないようにし、利用者が居心地良く過ごせる居室作りを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、フロアーなど安全に歩行、移動できるように心がけ、障害物がない様安全確認し、支援しています。		